

「村」の調査報告書

Report of visiting Portmeirion
as the village of 'The Prisoner'



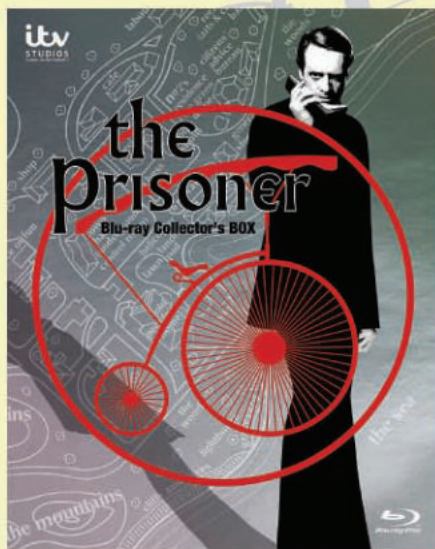
2016.10.11

本書は2016年10月にカードゲーム「マジック・ザ・ギャザリング」のイベント参加のためロンドンに遊びに行った筆者が、せっかく英国まで行くのならと、かねて一度は訪れたいと思っていた「プリズナーNo.6」の「村」のロケ地であるポートメイリオンに行った際の記録です。現地の金額表記は原則として通貨の£（ポンド）で行っています。訪問時はだいたい1£ = 130円（手数料を考えれば135円）くらいでした。

プリズナーNo.6について

本書をお求めいただける方であれば基本的にはこの作品については熟知していると思われるので詳細な解説は割愛しますが、「プリズナーNo.6」は1967年にBBCが製作した架空の「村」を舞台にしたSF仕立てのミステリアスなドラマです（1時間・全17話）。約50年前の作品になるわけですが、いまでも根強いファンを持つ作品で、筆者も高校生の時（約35年前）にこれを見てはまり、言うまでもなく現在も大好きな作品のひとつです。

なお2009年にリメイク版の「プリズナーNo.6」のドラマ（1時間・全6話）も製作されましたが、まあ「別物」扱いでよろしいかと思います。



BD-BOXのジャケット写真

この内容で希望小売価格25920円（実売2万円少々）は、はっきり言って安い（個人の感想です）。

2016年9月に音声を復元した「完全版」と言って良い「プリズナーNo.6」のBD-BOXが発売されましたので、本書で興味を抱かれた方も含め、ご購入をお勧めします。

本書のテーマとは無関係なので詳細な内容は割愛しますが、実は「プリズナーNo.6」は「言葉狩り」による「いわゆる放送禁止用語」のカットが酷かった作品で、これまでに発売されたVHS・LD-BOX・DVD-BOX・再放送のほとんどが「日本語音声がつぶ切れ」の状態、このため地方局の再放送を録画した古いビデオテープなどを長く手放せない状態でした。しかしその日本語音声も復元されたので、今回のBD-BOXはまさに「買い」と言えます。

ポートメイリオンについて

ポートメイリオン（Portmeirion；本書ではこのカタカナで統一します）は、英国のウェールズ州の北部にある沿岸の村で、「プリズナーNo.6」の主な舞台である「村」のロケ地として使用されました。1925年にリゾート地として開発されたとのこと。

そして、これは本書の主内容となりますが、基本的にこの村では「プリズナーNo.6」は必然的に重要な観光資源になっているので、約50年が経過した現在でも撮影当時の建物や風景や雰囲気できるだけ保つ方針での観光地になっているようです（少なくとも、そのように見えます）。

もちろん「プリズナーNo.6の聖地」であるこの村では同作品のファンの心をくすぐるあれこれが随所にありますが、とってグッズショップ以外の場所では露骨に商売っ気をその方面に出しているわけでもなく、静かなリゾート地として成立していると言えます。

<http://www.portmeirion-village.com/>

作品画像について

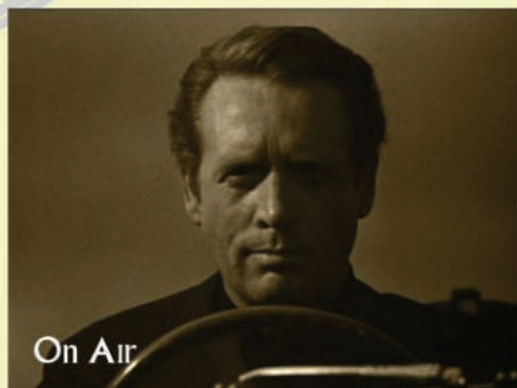
本書での試みの主要な部分となりますが、本書での風景写真は基本、現地を訪れた筆者がすべて自分のカメラで撮影したものを使用しておりますが、それと「プリズナーNo.6」本編での風景や建物との比較を行っております。

その意味で「どっちがどっち」かをより明確にするうえで、比較を必要とする部分での作品の本編画像については「セピア」色に加工したうえで左下に「On Air」の文字を入れております。

こんな感じですね→

※作品画像を含め、著作権表示については巻末にまとめています。

「プリズナーNo.6」の聖地であるポートメイリオン訪問について、本書をお楽しみいただければ幸いです。



オープニングでの主人公の行動

まずは「プリズナーNo.6」のオープニングが撮影されているロンドン市内のポイントを確認しておくことにしましょう。

厳密には、第2話以降での統一された「オープニング」ではなく、いくつかのカットが追加されている第1話の冒頭部分をもとに調査を行いました。

まずロンドン市内に入った主人公の車は、ウェストミンスター橋を東から西に渡ります。



主人公の車が右に走り去った後でビッグ・ベンのある建物が確認できます。ただし左のカット中央の特徴的な建物は、現在は建て替えられてしまったようです。現在、同じ場所にある白い建物は聖トーマス病院です。



「村」に行く

「プリズナーNo.6」の主要な舞台である「村」であるポートメイリオンは、英国の北部ウェールズ州にある小さい村です。ロンドンからは鉄道を何回か乗り換えて半日くらいはかかり、費用もおそらくは往復£200くらい見たほうが良いでしょう。英国鉄道のサイト（※1）で最寄り駅のポルスマドク（Porthmadog）かブライナイフェスティニオグ（Blaenau Ffestiniog）行きの経路を調べましょう。ブライナイフェスティニオグからは駅前のバス乗り場からB1バス（1時間に1本くらい）でミンフォルズ（Minffordd）まで行くのがお勧め（タクシーだといくらかかるものやら…）。ポルスマドクかミンフォルズからは、ホテルに電話ができればホテルから車を回して貰えると思います（無料）。

※1 <http://www.nationalrail.co.uk/>

「村」に泊まる

ポートメイリオンは普通のリゾート地であり、Expedia（※1）やBooking（※2）等のどの旅行サイトでも、容易に部屋を予約して普通に宿泊することができます。いずれのサイトでも「Portmeirion Hotel & Castell Deudraeth」という**1個のホテル**しかヒットしませんが、後で述べるように実際の宿泊施設は「村」のあちこちに点在しており、

予約する際に選ぶ「部屋」で指定ができます。費用は1泊最安値で£130くらいでしょうか。

これが安い高いかはあなた次第。

※1 <https://www.expedia.co.jp/>

※2 <http://www.booking.com/index.ja.html>

それまで一切の謎だった「村」の正体を、一気に盛大にネタバラシした最終話のオープニング。ホテルは左上に見えます。



目次

「村」はこの地図で300m平方くらいの、小さな場所です

↑北に「病院」



The Map of Portmeirion

powered by Google

2	はじめに	2 2	養老院
4	オープニングでの主人公の行動	2 3	船とヘリポート
9	「村」へ	2 4	議事堂
1 0	目次	2 5	投票所
1 1	「村」の入口	2 6	噴水
1 2	No.6の家	2 7	芝生
1 4	No.2の屋敷	2 8	病院
1 5	商店	2 9	森
1 6	鐘楼	3 0	砂浜
1 7	バー	3 1	遊技場
1 8	ナディアの家	3 2	グッズなど
2 0	カフェ	3 5	あとがき
2 1	案内板と職業紹介所		

種別に応じて、見出しなどを色分けしています

■ ロンドン ■ ポートメイリオン ■ グッズ ■ その他

「村」の入口

ポートメイリオンには北のミンフォルズ（Minffordd）から入ります。

北側にいかにも「ここから
ポートメイリオン」という
出入り口があり、観光者
向けの案内パンフレットや
観光ガイド（有料）なども
ここに置いてあります。
※パンフは取りましょう。

徒歩で村に入る場合には、
ここをそのまま南下しますが、
車両でホテルに入る場合には、
右にある「ゲート」を空けて
から森の中を歩いて村に入
ります（左の地図参照）。

入ってすぐ右には土産物屋&
バーの「No.6」もあります。
こんな露骨な名前の店で
すが、ここには「プリズナー
No.6」グッズは置いては
おらず、ポートメイリオンの
一般の観光土産が並びます。

「プリズナーNo.6」グッズは
「No.6の家」で、まとめて
扱っています。



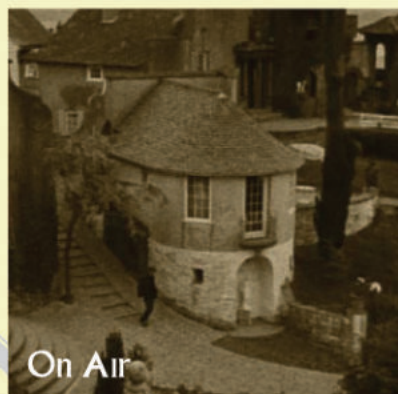
なお当然ながら、もちろん作中にはこんな場所はいずれも出てきません（笑）

No.6の家

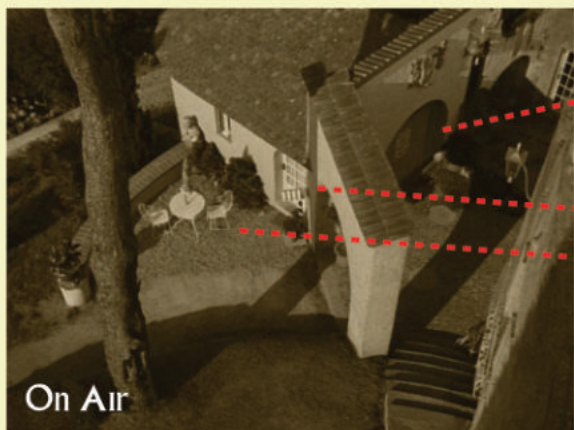


まずはこれを押さえてくなくては始まりません。

主人公のNo.6の家は、村のメインストリートから一段下ったところにあります。



一部色を塗り替えてありますが、下の道路に面した所の彫像や特徴のあるテラスなどはそのまま残っています。



No.6の家の上部構造は若干複雑で、表通りに面した部分には装飾が施されており、出入りはその左のベランダ側にある自動ドアの玄関から行っています。

また、ここで椅子に座ってお茶を飲みながら「村」を見下ろすことができます。

※画像は鐘楼から見下ろしたものです

No.2の屋敷



「緑の屋根」が目印のNo.2の屋敷は、明るいエメラルドグリーンから暗い緑に屋根が塗り替えられましたが、特徴のある丸屋根はそのまま残っており、高台にあることからいまも村の中心部では真っ先に目を引く建物です。



No.6の家から階段を上るとすぐで、上ると村全体を見渡すことができます。

中に入ることができ、今はご当地の画家の作品展示会をやっておりました。

鐘楼

村全体を一望できる鐘楼は、No.6の家を広場側に出て、すぐ上ったところにあります。



残念ながら訪問時は改装工事中で、中に入って登ることは制止されました。

実は工事人のいない早朝に忍び込もうと試みたのですが、鍵がかかっていました（笑）。

いまも中に彫像があるかどうかは不明です。





海辺にある養老院は、この「村」の看板ホテルThe Hotel Portmarionです。共通フロントがこの建物にあるので、村を訪れた方はまずここに車で案内されて、チェックインの手続きを行うことでしょう。



テラスのテーブル番号は
ファンサービスのデザインです

この建物では上等な洋風ディナー（コース£36~45）とおいしい朝食（室料は朝食代込み）を楽しむことのできるレストランがあります。

「ナディアの家」の所（P.18）でも述べたように、ここの宿泊システムはThe Hotel Portmerionに一本化されており宿泊する「部屋」に応じて村の各所の建物に泊まります。

部屋を選択する際に「Main Hotel」を選ぶとこの建物に宿泊できるようです。

「ここはどこだ」
「ポートメイリオンだ」
「何が欲しい」
「村の情報だ」
「どっちの味方なんだ」
「プリズナーNo.6ファンの味方だ」

本書は1967年のドラマ「プリズナーNo.6」での
主要な舞台「村」のロケ地である
英国北部ウェールズ州ポートメイリオンを
筆者が2016年の10月に訪問した際の記録です